

佳作

競泳—みんなの笑顔—

徳島県 徳島市渋野小学校六年 金井 結愛

私は、競泳をしています。競泳は、すごく悔しいことや苦しいこともたくさんあるけれど、絶対にあきらめずに努力し続けると、必ず報われて、笑顔がたくさんはじけ出す私にとってとても大切な存在です。

はあはあはあ……。電光掲示板のタイムを見た瞬間、私は涙が止まりませんでした。「ダメだった」。目標としていたタイムを切ることができませんでした。一生懸命はげまして、応援してくれた友達の前で声を上げて泣きくずれてしまいました。いままで順調に進んできたけれど、大きな壁が現れて前に進めなくなっただかのように。「前を向こう」。そう考えてがんばりましたが、足をいためてしまい、治った後の大会でも、うまくはいきませんでした。ライバルにも負けて思うようタイムが出なくて。私はどうして

いつもできないんだろう。がんばってもがんばっても足りなくて。私はどうしたい。どういう風になりたいの。みんなが応援してくれている。なのにその期待に応えられない。忘れられないあの時の気持ち。ひたすら自分と向き合い、毎晩ふとんの中で泣いて考えての日々が続きました。

でもある時、私は気づき、大きく心が揺れ、涙がこぼれおちて、感動しました。こんなにも自分は支えられていて、応援してくれている。みんながいて、ということ。

「いっしょにがんばろう！」

「いけるよ！いけるよ！」

みんなが支え合っていけるライバルでもある最高の親友たちからの言葉。

「自信をもって。気持ちを入れ変えて。」

「自分を信じて。」

「次がんばればいける！」

がんばりを認めてくれるコーチや家族からの言葉。どの言葉も私が支えてきてもらってきたものでした。けれど、それ以上にその言葉に詰まっている私の事を思ってくれている私への思いも実感できました。私が友達に、

「あとちょっとだよ！大丈夫！大丈夫！」

とはげましてあげた時も、

「いつもうれしい事言ってくれてありがとう。」

と感謝してくれていました。私の言葉でみんなが笑顔になってくれてとてもうれしかったです。いままで私は応援してくれていたのに、いい結果が出なかった時は、「ありがとう」より「ごめんね」の方が数が多かった気がしました。だから、応援してくれているみんなに今度は私が、「ありがとう！」と言います。つらくて苦しくてどうしようもなかった時に手を差し伸べてくれたみんなに感謝し、「やさしくて強いみんなみたいになる」と強く思いました。

私は競泳が心の底から大好きで、本当に大切です。競泳では心が折れそうな時も、声を上げて泣いてしまふ時もあるけれど、みんなが支えてくれていることをすぐ傍で実感できて、あふれ出す言葉と笑顔が生まれるとっても輝く宝物です。私はこれからも選手として、努力し続け、みんなの笑顔になれるよう、競泳の道を歩み続けます。